Ｃ－１　指導案

第６学年国語科学習指導案

１．単元名　学級討論会をしよう

２．目標

（１）単元の目標

・ある問題について、賛成する立場と反対する立場に分かれ、それぞれの意見の長所・短所を分析的に考え、相手を説得する話し方を工夫したり、相手の論点を聞き取ったりして、結論を導こうとして討論できる。　話す・聞く（ィ）（ゥ）

（２）観点別目標

・討論の形式や話題に興味をもち、積極的に参加しようとしている。
【国語科に対する関心・意欲・態度】

・話し手の主張をその理由を考えながら聞き、自分の考えと比べることができる。【聞く能力】

・自分の考えや理由をはっきりさせ、論理的に話し合える。　【話す能力】

・相手を説得するために、話の組み立ての効果を考えることができる。
【言語についての知識・理解・技能】

３．指導にあたって

【教材観】

本単元には、討論会での話題を決めた後、どのような準備をして、どのような手順で討論を進めていくかが示されている。討論にはいろいろな形態があるが、ディベート形式の学習を試みようと思う。しかし、学級会のように、話し合いによって何かを決めたり、一つのものにまとめたりすることはしない。あくまでも聞き手に分かり易く、根拠となる事実や具体例などを示しながら、適切な表現方法を用いて話し合うことをねらいとしている。

聞き手を納得させるような話し方や論理の提示ができたか、話し手の考えを自分の考えと比べながら、検討しつつ聞けたかということを目標として、話す力・聞く力を育てたい。

【児童観】

前単元では、筆者の主張をとらえて、「聞いてわたしの主張！」を設定したところ、全児童が、自分の考えをもち、堂々と主張した。しかしながら、本クラスの児童は、失敗をおそれる気持ちが強く先陣を切って発表する児童が少ない。また、語彙不足から自分の考えを明確に言い切れない。声も弱々しく、自分の意見を相手に分かるように話すと言うことにかなりの難しさがある。

こうした実態をとらえ、２人ペアで話し合うことやグループで話し合う事などを取り入れ、話すことに抵抗感をなくすように努力してきた。本時は、自分の考えや理由をはっきりさせ、論理的に話せるように、自分の考えをワークシートに書かせたり、討論会のプロットを提示したりして、討論会の見通しをもたせて参加させるようにした。そして、勝ち負けの判定をしないディベートに、安心して参加できるように設定した。

【本単元で育てる活用力】

活用力をつけるには、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」学習活動を行うことが重要であると述べられている。そこで、本単元でディベート形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせようと試みた。

討論は、①意見を明確にもつ力を高める②論理的思考力を高める③情報の収集・活用の能力を高める④聞く力を高める、等の価値がある。聞き手としてそれぞれの発言者の意見とその根拠は何かを十分に理解したり、相手の意図をとらえながら聞いたりすることによって、そのテーマについての自分の考えを深め、意見を再構築できる。こうした活動を多く仕組んで行くことが、論理的思考力の向上につながり、ひいては、「つながる授業」の活性化にもよい刺激となるであろうと考え、はじめてのディベート形式の討論会に挑戦する。

４．指導計画

過程	目　　標	学　習　活　動	評価規準と評価方法	評価の観点		
				関意	話聞	言語
第一次 (2)	・「討論」という方法・形式について知り、学習の見通しをもつことができる。	・討論会で、みんなの問題として、討論してみたいことを話し合う。 ・教材文を読み、討論会のねらいや準備、進め方について概略をつかむ。	・討論の話題に興味をもち、自分の考えをワークシートに書こうとしている。 （ワークシート）	○		
		・付録ＣＤを聞き、討論会の進め方をつかむ。	・討論のねらいや進行方法をつかみ、討論会シートを見直そうとしている。 （ワークシート）	○		
第二次 (2)	・討論会の進め方について計画をたて、準備をすることができる。	・グループを作って、役割分担を行う。 ・討論会のルールについて話し合う。 ・自分の考えをワークシートに書く。	・討論の話題にそって、話の組み立てを考えることができる。 （役割分担のワークシート）			○
	・計画をもとに、グループで話し合い、説得力のある反論を作成して準備をする。	・グループで相手を論破する作戦を立てる。 ・討論会のプロットを確認する。	・論破原稿を作成したり、話の組み立ての効果を考えることができる。 （話し合いの様子、発表原稿）			○
第三次 (2)	・相手の意見を聞き、自分の考えと比べながら発言できる。	・グループに分かれて、一回目の討論会をする。 ・ふり返り、次回のめあてを確認する。	・自分の考えや理由をはっきりさせ、論理的に話すことができる。 （様子観察・討論会シート）		○	
		・ワークシートに書き加えをし、グループで相談する。 ・二回目の討論会をする。 ・成果と課題を話し合い、学習のまとめをする。	・相手の意見を自分の考えと比べて聞き、理由や根拠を明確にした発言ができる。 （様子観察・討論会シート）		○	

５．本時の学習（第三次の２時）

（１）目標

・相手の意見を聞き、自分の考えと比べながら発言できる。

（２）評価規準

・相手の意見を自分の考えと比べて聞き、理由や根拠を明確にした発言ができる。

（聞く・話す能力）

（３）展開

過程	学習活動と予想される反応	留意点(・)支援(◇)評価(◎)
共有３分	１．課題を決める。 ・前回の討論会をふり返り、めあてを確かめる。 ・討論のテーマを確認する。 『　縦割り班は、うまくいっている。　』 ２．めあてを確認する。 説得力のある討論をしよう。	・討論会シートにより、前回の討論会をふり返り、改善点を探る。 ・討論会のプロットを確かめる。 ・説得力のある話し方を提示する。
表出７分	・原稿を修正する。 ［各自考える］ ・理由と具体例は適切か。 ・説得力のある資料はないか。 ・論理の組み立てはよいか。 ・表現で工夫するところはどこか。 ［グループで相談をする］ ・どんな質問をしよう。 ・どんな質問がくるかな。 ・どう答弁しようかな。	・各自の考える作業が終了次第、グループで対策を考えさせる。 ・相手側の意見を予想し、その弱点や質問を考える。 ・最後の結論を大まかに考えておく。 ・討論会のルールを確認する。 ・司会、計時係を決める。
つないで活かす30分	３．討論会を行う。 ・討論会の流れに沿って話し合う。 ①肯定側の主張（１分） ②否定側の主張（１分） ③作戦タイム（３分） ④否定側の質問・意見・答弁（３分） ⑤肯定側の質問・意見・答弁（３分） ⑥作戦タイム（３分） ⑦フリートーキング（３分） ⑧肯定側の最後の主張（１分） ⑨否定側の最後の主張（１分） ⑩聞くグループからの講評（５分）	◎相手の意見を自分の考えと比べて聞き、理由や根拠を明確にした発言ができる。 （様子観察・討論会シート） ◇説得力のある発言や、相手の意見に応じた適切な発言などの良い発言を記録する。 ◇司会進行の児童がつまずいている際は、円滑に進むようにアドバイスをする。 ・聞くグループから、資料・情報の活用の仕方や質問の仕方など、両方のグループの良かった点を聞き、討論をふり返る。
まとめる５分	４．学習のまとめをする。 ・討論会をふり返り、グループで成果と課題を話し合う。 ・学習のまとめをする。 「理由は…」を使って話せた。 資料・情報を活用して具体例を示せた。 質問・答弁の仕方が的確だった。	・説得力のある発言や、相手の意見に応じた適切な発言などを紹介しまとめる。